

世の中を暖めつづける雑誌でありたい

パルシステム生活協同組合連合会理事長 山本伸司

日本はいま当たり前のように「無縁社会」、「格差社会」と呼ばれるようになり、孤立と貧困が拡大しています。大企業も自社の利益確保だけに汲々としています。

そんなエゴイスタックな雰囲気が日本中にまん延する中で、実は他人のために、そして自分自身のくらしと喜びのために、ささやかですが活動している無数の市民がいます。それはけっして少ない人々ではありません。本誌『のんびる』にもこれまで1000を超える人々や団体が登場しています。

テーマも多様、組織も多彩、紹介させていただいた主人公たちは実にバラエティに富んでいます。食、カフェ、レストラン、農・林・漁業、農体験、障がい者の活動、子育て、高齢者、街づくり……実にいろいろなグループが紹介されました。

それぞれけっして資金的に豊かというわけではないのに、すべての皆さんに熱い思いと使命

感とでもいうべき志が流れていました。私たちはそこに感動し、共感して誌面をつくってきたのです。

私たちが雑誌を読むことの愉しみはどこから来るのかを考えますと、それは知識を得たり、物語を追体験する娯楽性であったりするのでしょうが、さて『のんびる』はどうなのでしょう。

それは一言でいえば「発見と共感」なのだと思います。少し重たいような、えっと驚くような、こういうやり方もあるのかと感心したり、すごいなと感動する実体験が、たい焼きのアンコのようにプックリ詰まっています。そこにはふつうの人々のふつうでない仕事があります。そのすごさに気づく、そして自分の潜在的なパワーに気づく。それが『のんびる』の果たしてきた役割ではなかったか、ちよっぴり自負しています。

『のんびる』のめざすところは、ざっくり言う

と、「世の中を暖めること」。誰が悪い、政府が悪い、社会が悪い、どうして私だけが……と悩んでいるすべての人たちに、もうひとつの社会があることを知っていただきたい。そこには他人の喜びがうれしく、おせっかいで、行動せずにはいられない人々があります。そういう人たちと出会いたい、そういう人たちと語り合いたい、いっしょに動いてみたい。読後、そうした気持ちで湧いてくることを願ってこれまで誌面づくりを続けてきました。

『のんびる』は、いつまでもお人よしの改革者です。大勢の皆さんの善意によって成り立っています。声をかけ、紹介し、つないでいきたい。もつともつと、いろんな活動を目立たず続けている人たちに光を当て、輝いてもらおう。これからも、そんな人たちの生命感と感動を引っ張り出していきます。引き続きご愛読をお願い申し上げます。

(談)

